

中国におけるデータ駆動型金融に関する研究*

京都先端科学大学 李 立栄

中国のフィンテックのパーソナルファイナンス分野における先進的なエコシステムは、電子決済情報のみならず、様々なデジタルフットプリントや取引履歴といった、物流や商流におけるパーソナルデータを取り込み、人工知能を活用してリアルタイムで信用評価を行い、そのスコアリングを貸出や様々な非金融サービスにまで活用できることに特徴がある。

本研究では、中国での人工知能を活用したデータ分析型融資の広がりを中心に事例を調査し、金融サービスにおいて人工知能がどのように位置付けられているのか、期待されている効果とその成果、個人情報問題への対応、などの事実を明らかにする。特に、データ駆動型金融を用いた与信業務の展開が従来型金融機関の審査業務に比べてパフォーマンスが向上しているのか、金融包摂に効果が表れているのか、をデータに基づいて実証的に明らかにする。

中国を研究対象とするのは、フィンテック分野で同国が先進的なサービスをいち早く展開しているからである。急速に発展する理由としては、膨大なビッグデータの蓄積、複占のプラットフォームによるネットワーク効果、イノベーションが容易な規制環境、従来型金融サービスとの大きな利便性格差、などさまざまな要因が指摘されている。わが国とは政治体制が大きく異なるものの、情報通信技術が主導する中国のフィンテックは、一つの金融サービスの将来像を示すものとして注目される。とりわけ、個人の信用情報をリアルタイムで更新して活用するデータ駆動型金融について、その課題を含めて将来の可能性について考察することは、わが国の金融サービスの将来像を考える上でも意義は大きいと考えられる。

本報告では、中国のパーソナルファイナンス分野におけるアリババグループを中心とした金融ビジネスの先進事例を紹介するとともに、このようなデータ駆動型金融の拡大から得られる未来の金融ビジネスの姿やわが国への示唆を論じる。また、コロナ禍による中国のパーソナルファイナンスにおける新しい変化についても言及したい。

キーワード：中国のフィンテック、データ駆動型金融、人工知能、金融イノベーション

* 本研究は公益財団法人日本証券奨学財団 (Japan Securities Scholarship Foundation) の助成を受けたものである。